

東京都立自校作成問題の傾向

英語 各校とも会話文と長文中心の出題形式。文章量は都立共通問題よりも多め。
長文の内容合致や適語適文補充、整序英作文、英問英答など。
学校により、図やグラフ、イラストを用いた設問が出題されている。
英文の正確な内容把握が問われるが、文章中に必ずヒントがあるので、じっくりと読み進めていくことが大切。
英作文は学校によって指定語数が違うほか、複数出題されている学校もある。

.....

数学 前半は数式の計算や方程式、確率などの小問集、後半は各単元の応用問題という出題構成がほとんど。
応用問題では図やグラフを使った問題が頻出しており、柔軟な数学的思考力や応用力をみる問題が多く、
全体的にレベルが高いため、十分な対策が必要である。
関数と立体に関しては、レベルの高い問題の出題も目立つ。まずは、題意を正確に読み取ることが必要であり、
定理や法則を暗記するだけでなく、普段から筋道立てて確実に解いていく習慣をつけることが必要。

.....

国語 論説文や小説文などと現古融合文の読解が基本パターンとなっている。
設問の難度は都立共通問題より高い。文章も長く設問数が多いため時間配分に注意が必要。
多くの学校で、長文の中で50字程度の記述問題が出題されており、正確な内容把握と過不足のない記述
が要求されている。
また、200字前後の作文問題は多くの学校で出題されており、課題の多くは長文からの引用や身近なもの
から出されている。
現古融合文は現代文の中に古文や短歌などが引用されている形式がほとんど。